

「龍谷の森」里山保全の会の記録

丸山 徳次

「龍谷の森」里山保全の会は、2005年度、下記の日程で例会を実施しました。

- 2005年 5月 5日 (木) 特別例会：近江湖南アルプス自然休養森を歩く
2005年 6月18日 (土) 「龍谷の森」の新たな展開
2005年11月 5日 (土)、6日 (日)、19日 (土)、26日 (土)、12月3日 (土)
「眠りの森」事業への協力活動
2006年 1月21日 (土) 落ち葉堆肥の掘り出しと新たな堆肥づくり

5月の特別例会では、「龍谷の森」のある瀬田丘陵から南方、湖南アルプス自然休養森を歩きました。「龍谷の森」里山保全の会が、周辺部に眼をやり、琵琶湖南部地域の全体から「龍谷の森」を見ることを重要視するのは、昨年度に続いてのことです。デレーケのオランダ堰堤を見学することも、大変興味深いものでした。

6月と1月の例会の特徴は、龍谷大学深草学舎における環境系科目受講の学生諸君がたくさん参加し、共同して作業にあたったことです。世代間の関わりによる共同作業の意義と楽しみは、何度強調しても足りません。1月の落ち葉の堆肥掘り出しと新しい堆肥づくりは、すっかりお馴染みの作業となり、会員たちが最も楽しみとしているものです。今年もたくさんの堆肥（腐葉土）が一種の「収穫」として、参加会員たちの「お土産」となりました。

以下、各例会の案内文を記録としてそのまま掲載しておきます。

「龍谷の森」里山保全の会・特別例会「近江湖南アルプス自然休養森を歩く」

まだ寒さの少し残っていた早春のシイタケの春子狩りの後、あたりはすっかり新緑に包まれてしまいました。前回お約束した、コバノミツバツツジの花見の会もあつという間の春の早さに時節遅れとなりそうです。そこで、今回は思い切って趣向を変えて、お隣の桐生の里に続く湖南アルプス自然休養森の散策を計画しました。

奈良時代から続いた木材の切り出しで岩肌もあらわな金勝山一帯も、近代になってからの治水事業でようやく緑を取り戻し、近代の治山事業の名残のオランダ堰堤に続く湖南アルプス自然休養森は今では大津市民や草津市民のピクニックサイトとして、たくさんの方の家族連れでにぎわっています。その少し先には、しかし、今一度の山の破壊ともいえる第2名神道路が走るようになりました。

5月の連休の最後に、蘇った緑を眺めつつ、荒れ果てた山に緑を取り戻す先人たちの苦勞をしのび、その一方で現代の私たちの欲望が切り開いた山の姿も見つめたいと思います。連休中で予定のある方も多いかと存じますが、ご参加をお待ちしております。

日 時：2005年5月5日（木）祝日 午前10時～午後2時ごろまで
集 合 場 所：草津駅上桐生行きバス停車場 午前9：40までに（バスは10時発）
歩 く 場 所：湖南アルプス自然休養森一帯

オランダ堰堤～逆さ観音～自然休養森

一帯は、典型的な里山で、里山の樹木、草本類の観察に適しています。コバノガマズミ、ウワミズザクラ、シャシャンボ、テリハノイバラ、ヒメシャラ、ヤマモモ、近畿地方の保護上重要植物に指定されているマルバノキなどが生えています。

持参するもの：弁当、飲み物、おやつ、コップ（山の水が飲めるところがあります）、雨具、タオル、手袋。

服 装：山歩きに適したものを。特に靴はしっかりしたものを履くこと。
家族キャンプ場から、岩が残る山道を登ります。

「龍谷の森」里山保全の会 代表世話人 江南 和 幸

<当日配布資料>

湖南アルプス自然休養の森植物探査

天津市の南の端に、東海道線の車窓から見える禿山は、今ではその特異な岩の山肌から「湖南アルプス」とよばれ、都会からのハイキングの格好の場所を提供している。

かつてはこの山一帯は鬱蒼とした森林に覆われていたと伝えられている。奈良時代からの大仏殿建設や、信楽の宮、大津京造成のため、瀬田川水系にごく近い森林資源としてそれらの森林は伐採され、禿山になり、山麓の田上の村落はその後度々の洪水に見舞われたという。「国家」による自然の収奪と放置の「反面教師」の見本のような山である。第2次大戦後のアカマツの植林や、天津市の小学校、中学の生徒たちによるヤシャブシ類の種まきにより2次林となり、今でもアカマツ林が残存する近畿地方でも残り少ないマツタケ山が経営される山地となっている。

秋の3ヶ月間にこの中にうっかり入ると、マツタケ泥棒のあらぬ疑いを受けて難儀が待ち受けるが、春から夏にかけては、滋賀県の中では、東海地区の植物と日本海側の植物とがともに生育する貴重な植物区となっている。

奈良時代に木材を切り出した関係からか、また信楽の宮との関係からからか、この地には古くから山岳仏教寺院が栄え、いまなおその痕跡をとどめ、磨崖佛がハイキングの楽しみを増してくれる。金勝山（コンゼヤマ）の名称のもとになった、金勝寺は東大寺の良弁（ロウベン）僧都が開基したことから、おくりなの金剛菩薩（キンショウボサツ）をとって、金勝の名がつけられたという（833年再興時）。

ハイキングコースの途中には、狛坂磨崖佛、茶沸観音や、重岩の線刻仏像などが今も残り登山者の安全を見守ってくれる。

さて今回は登山ではなく、瀬田の森のお隣の森の姿を観察することに主眼を置き、近代の砂防工事手本となった、オランダ堰堤見学を皮切りに、自然休養の森一帯の散策を楽しむことにする。オランダ堰堤から谷道を緩やかに登り、逆さ観音の小公園を経てしばらくすると、行く手に突然第2名神高速道が現れる。田上の小・中学生たちが数十年にわたり植栽を続け、緑を取り戻した山が、いとも簡単に切り開かれた姿に愕然とする。それに対する申し訳のように、付近が公園として整備されて、確かに歩きやすくなっているが、胸をわくわくさせながら山道を分け入った以前のハイキングが無性に懐かし

く思い起こされる。それでも、狛坂磨崖佛を経て金勝山に続く山道は、キンコウカやモウセンゴケの群落、コバノトンボソウなどの湿原の植物があちらこちらに生え、貧栄養化が逆に貴重な植物を残すという皮肉を見せてくれる。

名神道路のガード下をくぐらずに、左に登り休養の森コースに入れば、それはそれなりに、明るい樹林が迎えてくれる。以前の探索の折に、ヨタカが擬態を示して雛を守る光景に出くわし、この森に残る命のしたたかさに改めて驚いたものである。

以下4年ほど前の6月の探索の際に書き留めた金勝山一帯の植物のリストを示そう。この中でどれだけか休養の森に生えているかは探索のお楽しみとしたい。

上桐生一竜王山一帯の植物（2001年6月16日下見）の概要（50音順）

アオキ、アオダモ（マルバアオダモ）、アオツツラフジ、アオハダ、アカソ、アカマツ、アカメガシワ、アキノキリンソウ、アケビ、アセビ、アクシバ、アラカシ、アリノトウグサ、イソノキ、イタチハギ（クロバナエンジュ）、イタドリ、イチヤクソウ、イヌエンジュ、イヌツゲ、イノコヅチ、イワナシ、ウワミズザクラ、ウスノキ（カクミノスノキ）、ウツギ、ウツボグサ、ウメモドキ、ウラジロ、ウラジロノキ、ウリカエデ、エゴノキ、エノキ、オオイワカガミ、オオバヤシャブシ、オトギリソウ、オニドコロ、オヘビイチゴ、イヌザンショウ、

カキドウシ、カキラン、カタバミ、カナメモチ、カラスザンショウ、カラムシ、カワラハンノキ、ガンピ、キクバヤマボクチ、キジノオシダ、キッコウハグマ、キブシ、キリ（ヤマギリ）、キンコウカ、キンミズヒキ、クサイチゴ、クサギ、クズ、クヌギ、クロモジ、ケヤキ、コアジサイ、コウゾ、コウゾリナ、コウヤボウキ、コガンピ、

コケオトギリ、コシアブラ、コシダ、コツクバネウツギ、コナラ、コナスビ、コバノガマズミ、コバノミツバツツジ、コマツナギ、コモウセンゴケ、

サカキ、ササユリ、サルトリイバラ、サンカクヅル、サンゴジュ（植栽?）、シキミ、シシガシラ、シャシャンボ、シハイスマレ、ショウジョウバカマ、スイカツラ、スギ、ススキ、スノキ、セリ、セイタカアワダチソウ、ソヨゴ、

タカオモミジ、タカノツメ、タニウツギ、タムシバ、タラノキ、チヂミザサ、チチコグサ、ツクバネガシ、ツタ、ツルアリドウシ、ツルニンジン、テイカカツラ、テリハノイバラ、

トウバナ、ドクダミ、

ナガバモミジイチゴ、ナツハゼ、ナツフジ、ナワシロイチゴ、ニガイチゴ、ニガナ、ニセアカシア、ヌスビトハギ、ヌルデ、ネザサ、ネジキ、ネズノキ、ネズミモチ、ネムノキ、ノアザミ、ノギラン、ノリウツギ、

ハチク、ハナニガナ、ハンノキ、ヒイラギ、ヒサカキ、ビナンカツラ、ヒノキ、ヒメコマツ、ヒメシャラ、ヒメジョオン、ヒメヤシャブシ、ヒヨドリジョウゴ、ヒヨドリバナ、フジ、ヘクソカズラ、ベニシダ、ヘビイチゴ、ヘビノボラス、ホオノキ、ホツツジ、マダケ、マタタビ、ママコナ、ミツバ、ミツバアケビ、ミヤコイバラ、ミヤマカタバミ、ムクノキ、ムシカリ（オオカメノキ）、ムベ、ムラサキシキブ、メヤブマオウ、モチツツジ、ヤダケ、ヤチスギラン、ヤツデ、ヤブカンゾウ、ヤブコウジ、ヤブツバキ、ヤブマオ、ヤブラン、ヤマウルシ、ヤマガキ、ヤマグワ、ヤマザクラ、ヤマツツジ、ヤマナラシ、ヤマノイモ、ヤマモモ、ヤマハギ、ヤマハゼ、ヤマハンノキ、ヨウシュヤマゴボウ、ヨモギ、リョウブ

(江南和幸)

「龍谷の森」の新たな展開

「龍谷の森」里山保全の会 2005年度第2回例会

昨年5月に文部科学省の採択を得て里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター（略称、里山ORC）が開設されたことは、すでにご存知の通りです。この開設には、「龍谷の森」里山保全の会の活動実績と皆さんの支援が多大な力となりました。「龍谷の森」の中には、既に、里山ORCの研究資金によって、二つの観測タワー、地下水吸い上げシステム、バイオトイレが新たに設置されています。バイオトイレは、皆さんの便宜のため考慮して造られたものであり、保全の会の活動に直ちに利用可能なものです。また、地下水吸い上げシステムは、水場を創成することによって、生物多様性の変化を見る、自然再生の実験的な試みに資するためのものですが、保全活動の際の手荒い等にも使用可能な方向を考えています。

今般、「龍谷の森」里山保全の会では、里山ORC研究スタッフおよび学生諸君の協働

による、地下水吸い上げシステムにおける簡易水道敷設作業に協力し、また、バイオトイレ等の見学をかねた活動を行いたいと思います。若い人たちと一緒に汗を流すのも、いいものでしょう。ふるってご参加下さいますよう、お願いします。

日 時：2005年6月18日（土） 午前10時30分～午後3時ごろ

集 合 場 所：龍谷大学瀬田学舎内 バス停前

持参するもの：弁当、飲み物、おやつ、軍手、雨具、タオル、等

雨天中止、小雨決行とします。

2005年6月10日

「龍谷の森」里山保全の会 事務局世話人 丸山 徳次

「龍谷の森」里山保全の会 ご案内

皆様、お元気でしょうか。今般、龍谷大学は、滋賀医大を中心とした「眠りの森」事業に、「龍谷の森」における里山体験を提供することで協力することになりました。森林浴、里山体験、自然観察などを通して、睡眠障害のある方の治療とその効果について研究調査するのが、この事業です。つきましては、「龍谷の森」里山保全の会も協力し、間伐作業と遊歩道づくりに参加することになります。あわせて「龍谷の森」での親睦の会としたいと思います。

間伐と遊歩道づくりは、ともに同じ講師の方が指導にあたります。徳永さんという高齢の方で、樹木の伐採とか搬出など、山仕事には相当の経験を有している方です。滋賀森林管理署からご紹介頂いた方です。伐採作業に慣れている方もいるとは思いますが、プロの技を学ぶ機会をもつのも有意義だと思えます。

間伐でできたヒノキ材は、整理しておいて、後の保全の会の活動でベンチや樹木のネームプレートなどの作成に利用できると思えます。また、参加された方が自力で持ち帰ることができる程度の分量は、記念にお持ち帰り頂いてもよいと思えます。

日 程：11月5日（土）、6日（日）、19日（土）、26日（土）、12月3日（土）

時 間：午前と午後の2回に分けて、1日に2回、同じメニューを行う。

(上記のどの日に参加していただいても結構ですし、午前と午後連続で参加して頂いてもかまいません。)

集合時間：午前の部=9時30分、 午後の部=13時30分

集合場所はいつもの通り龍谷大学瀬田学舎内のバス停

持 ち 物：作業用の服装、軍手、飲み物、(午前・午後連続参加の場合は)昼食。

注 意：本協力事業の責任者は、「龍谷の森」里山保全の会の会員でもある宮浦富保先生(理工学部環境ソリューション工学科教授、里山ORCセンター長)です。ぶらりと参加して頂いてもよいのですが、実施予定の変更もあり得ますので、できるだけ事前に宮浦先生に連絡下さい。

また、参加して頂いた方には、睡眠の状況に関するアンケートに記入をして頂きたいと思います。ちょっと面倒なのですが、滋賀医大への協力ですので、どうぞよろしくお願い致します。

2005年11月1日

「龍谷の森」里山保全の会 事務局代表 丸山 徳次

<予告> 朝日新聞社との共催による朝日・大学パートナーズシンポジウムが、金沢大学と共同で開催されます(2005年12月17日)。「龍谷の森」里山保全の会の活動が、全国に報道されます。どうぞ皆さん御参加下さい。

「龍谷の森」里山保全の会の集いご案内

新年をいかがお過ごしでしょうか。新しい世紀と期待した21世紀は、早くも5年で破綻を見せ、JR西日本の大事故、年末のマンション設計の偽装、インターネットビジネス寵児たちによる投機の横行と、昨年は経済界を筆頭に日本社会の道徳的退廃ここに極まれる年ではありました。

こういう時代だからこそ、人間は自然の一員にすぎないという事実にたちかえり、母

なる自然とともに歩む道を今年も皆様と一緒に楽しみたいと思う年明けです。

さて、龍谷大学の里山ORCの研究会と昨年末の金沢大学との共同シンポジウムの準備などに取り紛れて、長い間ご無沙汰しておりました「保全の会」の集まりを、来たる1月21日（土）に開催いたします。

昨年埋め込んだ落ち葉の堆肥の掘り出しと、来年のための木の葉掻きをします。また、龍谷大学の学生さんとも共同で、間伐地域の整理を予定しています。

シイタケは春子にはまだ少し早く、3月ほどは収穫を期待できませんが、去年の秋に収穫した龍谷の松林のいつものヌメリイグチのピクルス（タルタルソースとフランスパン）などのおやつを用意しますので、お楽しみください。

掘り出した堆肥は、各自2袋を標準にお持ち帰りください。袋は用意します。

日 時：2006年1月21日（土）午前10時 小雨決行

集 合 場 所：龍谷大学瀬田学舎バス停

持参するもの：昼食、おやつ、飲み物、手袋、雨具（小雨決行の場合）、作業をしますの
で、動きやすい服装でお出かけください。

参加登録後、いつものコースを経て、「龍谷の森」に入り12時ごろまで作業をします。晴天の場合は、現地で昼食をします。小雨決行の場合、大学にもどり、7号館の環境ソリューション工学科の実習室をかりて昼食をします。

「龍谷の森」里山保全の会 代表世話人 江南 和幸